

【総評】

基礎編・応用編ともに、このところの3回と同様にやや易しく、既出の問題や素直な問題が多かった。特に応用編は計算問題が既出の問題ばかりであり高得点（75点以上）を狙える内容であった。3回連続で合格率が高い状態（15%超）が継続しているが、今回も一般的な配点状況であれば、合格率はある程度高くなることが想定される。

【基礎編 総評】

全体的にはやや易しかったと思われる。ただし、分野別でいうと「相続・事業承継」は難易度が高かった。他の分野は総じて難易度は高くなく、全体として50点ではなく56点程度以上が目標得点となる内容といえる。個数問題（適切な文章の数を選ぶ）は4問と多くなかったのも点数が取りやすい要因といえる。

【応用編 総評】

全体的には易しかった。5題ともに定番（法人税、自社株など）からの出題であり、所得税や相続税の総合問題でなかった分、難易度は低いといえる。特に記述計算問題はすべて既出問題であり、過去問題をしっかり解く学習をしていた受検生には易しかった。ただし、穴埋め問題は全体として前回より難しかった。厳しい方向の配点調整がない場合、平均点は高いと予想される。

■設例別講評

第1問 ライフプランニングと 資金計画	穴埋め問題（65歳以降の社会保険・在職老齢年金・公的医療保険）は3・2級レベルのものも見受けられた。年金額計算は老齢基礎年金と2023年9月試験以来となる在職老齢年金。基本月額の計算に経過的加算を含めないのがポイント。やや難しいが既出の問題であるため、ぜひ得点したい。
第2問 金融資産運用	財務分析の計算は穴埋め1問。記述計算は約5年ぶりにシナリオ別による期待収益率と標準偏差の計算。苦手な受検生以外は解けたはず。文章穴埋めのうち株式取引は2024年11月からの東証の変更点でやや難しかったが、投資信託の分配金の計算は落ち着いて取り組みれば解ける内容だった。
第3問 タックスプランニング	前回と同じく法人税。別表四の穴埋め、法人税額の計算、文章穴埋めといつもと同じパターン。別表四は前回に引き続き見知らぬ論点が1つもなくラッキー問題。法人税額の計算も税額控除を自分で計算する必要のないごく簡単な内容。文章穴埋めは消費税関連がやや難しかった。
第4問 不動産	穴埋め、建蔽率・容積率、譲渡所得の計算といういつもと同じパターン。譲渡所得は、だれもが第1予想と思っていた「固定資産の交換の特例」。準備していた受検生が多いだろう。建蔽率・容積率もごく普通（ただしセットバックあり）。文章穴埋めは取得の税金と固定資産の交換の特例で標準的。
第5問 相続・事業承継	2回ぶりに自社株の設例。類似業種比準価額の計算記述問題は1株当たりの配当と利益の計算が含まれるごく標準的なパターン。純資産価額と併用方式の計算もいつもと同じ内容。文章穴埋めは、遺留分（民法の特例含む）と住宅取得資金の非課税の特例で内容は易しかった。

《2025年 5 月 F P 1 級応用編配点予想》

受検者が自己採点を行うときの配点の目安としてご利用ください。

作成者個人の見解のため、いっさい保証はいたしかねます。

なお、実際には合格率調整のために配点調整が入る可能性がありますので、下記とは全く異なったり部分点の扱いに変更が生じることが考えられます。

2025年 5 月応用編 配点予想

2025年 5 月25日現在

作成：梶谷美果

【第 1 問】 (20点)	《問51》	①～⑥各 1 点
	《問52》	① 2 点 ② 6 点
	《問53》	①～⑥各 1 点
【第 2 問】 (20点)	《問54》	①②各 1 点、③ 1 点、④ 2 点、⑤ 2 点
	《問55》	①～⑤各 1 点、⑥ 2 点
	《問56》	① 2 点 ② 4 点
【第 3 問】 (20点)	《問57》	①～⑦各 1 点
	《問58》	7 点
	《問59》	①～⑥各 1 点
【第 4 問】 (20点)	《問60》	①～⑦各 1 点
	《問61》	① 5 点 ② 2 点
	《問62》	① 3 点 ② 3 点
【第 5 問】 (20点)	《問63》	7 点
	《問64》	① 3 点 ② 3 点
	《問65》	①～⑦各 1 点

(100点満点)